

# りんご収穫大忙し

## 生育順調 無事に収穫

～主力品種「ふじ」収穫～

ＪＡ管内で、りんごの主力品種「ふじ」の収穫が10月下旬から始まりました。収穫は11月下旬まで続き、サンふじ約144万6千箱（1箱20㍓）、有袋ふじは約17万3千箱の入庫を見込みます。

11月4日、サンふじを80㍓で栽培している六郷支店管内の村元義弘さんの園地では、収穫作業に追われ、赤く色着いたりんごの収穫と選果作業を行っていました。村元さんは「台風などの大きな被害も無く順調に生育し、無事に収穫を迎えることができた。1日でも早く全てのりんごが収穫できるよう最後まで気を抜かずに頑張りたい」と意気込みを話しました。

ＪＡでは、収穫が遅れるとツル割れなどの傷害果が増える恐れがあるので適期収穫を行い、選果作業では病害虫の被害果に注意するよう呼びかけました。



サンふじを収穫する村元さん

## 地元企業職員りんご園で作業

～援農ボランティア～

当ＪＡは10月31日、ＪＡグループ4連が農業者支援事業の一環として実施している「援農ボランティア」を受け入れました。地元企業職員19人が参加し、板柳地区のりんご生産者の園地で収穫作業を行いました。

参加者は、生産者から作業のポイントや注意点の説明を受け、丁寧に行いました。参加者は「収穫作業はとても楽しく、テンポよく進めることができた。今後も機会があれば参加し、生産者のサポートをしたい」と話しました。



りんごを収穫する地元企業職員

## 操縦かん握る手活躍

～日本航空株式会社（JAL）農業応援活動～

日本航空株式会社（JAL）の社員は、りんごの作業を手伝うため、当ＪＡ管内を訪れました。コロナ禍の影響で、農作業に支障が出ているというニュースを目にした同社の社員が農作業応援活動を提案し、実現しました。

11月5日、黒石地区の園地で摘葉作業をした主席機長の西田哲郎さんは「農作業を通して、果実が出来るまでの大変さと苦労を知ることができた。大好きな青森県の力になることができるととても嬉しい」と話しました。



摘葉作業をするJAL社員

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスクの着用や就業前の検温など徹底しました。